

一 歩け 一

秋空の暮れ方、空は高く澄み、西へ落ちた太陽の赤い残光がわずかにみられ、吹く風さわやか、西銀座のはずれ昭和通りにかかる歩道橋上からの眺めは夜のともしび、赤に青に緑に黄にと街の海原のなかにほのかに揺れはじめている。

橋の下を見やれば川の流れのごとく赤い或は黄味のある長い光を残して車は走りつづける。この橋の上で立ちどまり、この景を眺めつつふと想いに打たれる。今私はこの橋上へは何の抵抗も感ぜず気楽にエスカレーターでのぼつて来たのだ。本当に何の気もなしに今ここに立っている。ラッシュがすぎたのか人数も余り多くない。

この歩道橋は幅の広い大通りにかかり、交差点の四つ角から四カ所のエスカレーターがあり常時動いている。何の目的にて設備されたのであろうか。景気対策の一つとしてもとの考えもあろう。だが、だが、このエスカレーターによる消費電力を考えてみる。

東京中、或は全国的にこの設備を増やすとなると、その電力は莫大なものとなろう。このための発電設備（原子力及び火力）は更に増設が必要になろう。これに伴う公害発生量も計り知れないものとなる。

人間生活の安楽向上のためから起こる公害と果たして引き合うのであろうか。私は思はず首をすくめた。エスカレーターは身体障害者、老人の人々のためと言う主旨のもとに設備されたのかも知れない。しかし、この人等の利用度はまことに微々たるものである。

かかる設備による消費電力（ムダ？）の代りに、この人等のために別の有用な設備（老人ホーム、看護設備など）に配慮したほうが却って良いのではないかと思われる。元気な者は横断歩道を徒歩で渡ればよい。

交通安全の設備をしっかりとさせる。電力を使うことは地球温暖化にもつながることになる。私等人間も自然の中の姿を考えて、多少不便と考えるかも知れないが、歩くことに心を配るべきであろう。

一 くるま 一

私は8年前75才で車の運転をやめ、ゴルフからも遠ざかった。年をとったことで運動神経にもぶって来ている筈だし、また腰痛もあり、万全な体勢とは言えない。またゴルフは『健康のため』と言うが、半分以上は言訳だと思ふ。極寒の中、酷暑炎天の下、雨に打たれてのプレーなどどう考えても健康とは言えない。このような天候の日は取り止めればいいのだが、自分独りで勝手に決定できない。

歩くことは健康に欠かせないことと誰もが思っている。日常出来るだけ歩き、休日の日は計画的に社寺、旧跡地、風光景観訪問のもと公共交通機関を用い、現地ですることである。

休日の日、住宅地の中心地の駅周辺での買物、観光地での観光、夫々ドライバーが列をなして、排ガスを放出しつづのノロノロ運転、公害のお手本見たいなものである。だが、ドライバーの本人は何の考えもなく当たり前の顔である。

否、潜在的に頭のどこかに公害の考えがあるのかも知れない。でも考えたくないと言うことだと思ふ。

地球温暖化の第一の原因は人間生活の中にあって私等それぞれが、公害は自分達が起こしていると言う認識不足にもとづいているのであって、公害を叫ぶのであれば、その前に自分自身の周辺を見直してほしい。

アメリカの詩人ヘンリー・ディビット・ソロー（1817～62）の作品『ウォールデン＝森の生活』を今一度ページを開いて読み直してみても如何なるものだろうか。

注：一 『ウォールデン＝森の生活』米国の詩人ソローはアメリカ独立戦争ゆかりの地コンコードの町外れの湖畔で自給自足の生活実験をはじめ、自然に対抗して産業革命を突き進む時代の思想に異を唱え、自ら切り出した木材で住まい（6畳位）を建て簡素を理想として、2年間程生活し、この間の四季への瞑観想を出版した。

元大橋化学㈱、近庄化学㈱社長